



かすたネット スタッフからのメッセージ

本号で本年度の最終号になります。今回はちょっと趣向を変えて、本年度の相談活動を振り返り、学校訪問相談“かすたネット”の担当スタッフからのメッセージをお届けします。

■ 飯山百合子アドバイザーより

今年度、要請を受けて支援を行った学校は、41校（2月末現在）でした。年度当初から離席、飛び出し、暴言、暴力、授業妨害等への対応に苦慮している学校からの支援要請が多く、特に、小学校低学年の逸脱行為の相談が顕著です。

集団不適應の背景として、発達上の問題に加えて、愛着の問題に起因する情緒面の不安定さと、それに伴う未学習や誤学習が重複しているケースが多く、保護者対応も困難を極めます。

授業参観や行動観察後の担任の先生や管理職との話し合いでは、課題を明確にして、適切な支援がなされているかのアセスメントを行い、改善に向けての具体策を一緒に考えてきました。と言っても、魔法の言葉も、特効薬もありません。私たちの助言を、柔らかい心で受け止め、粘り強く対応していこうという姿勢がカギになります。

子どもの存在を否定せず、困っているのはこの子自身なのだということに気づき、先生自身が心のキャパを広げて欲しいものです。

■ 加藤友子相談員より（出前かすたの指導担当）

出前かすたでは、対象の子の困り感や先生方の指導の悩みに対して少しでもお役に立てるよう、学校からの情報を基に、個に応じた目標設定や指導内容の工夫に努めています。

指導の中では、『きいてよタイム』『サイレントタイム』の表示カード（第50号参照）が必須アイテムになっています。そして、指示に沿って行動できたときは「GOOD！（グー）」の声かけと👉ジェスチャー!! 「今の良かったよ」「〇〇できたね」の声かけと合わせて指導することで、子どもに分かりやすく、心に響いているように感じます。皆さんの学級でも👉取り入れてみませんか。

子どもと向き合うと、こちらの思いとは裏腹な反応が返ってくることも多く、「うんうん」と相槌を打っている私がいるのですが、“主導権は自分にあり”を常に意識して指導しています。

どのようなやりとりや活動場面で、子どもが自然な笑顔で取り組めたかななどを先生方にお伝えし、子どもの様々な面を先生方と共有しながら支援をしていきたいと思っています。



イラスト by 加藤

■ 大瀧からもひと言

学校訪問相談を飯山アドバイザーと分担して行うとともに、本通信の執筆を担当しています。発刊から3年、先生方からの「読んでますよ」の声が、作成の原動力になっています。

一筋縄ではいかない子どもの指導は、「言うは易し、行うは難し」で、なかなか思うようにいかないものですが、それでも指導のセオリーや様々な情報が念頭にあって子どもと向き合うのと、自分の経験・感性・信念のみを頼りに向き合うのとでは、指導の質や教師が醸す雰囲気は変わってくるはずです。子どもはその違いを嗅ぎ分けて、行動や態度で反応する一面もあるように思います。次年度も情報発信していきますので、引き続きよろしくお願ひします。

本通信は、ミライムの教育センターキャビネット>特別支援教育 及び宇都宮市教育センターのHP(トップ画面最下部の**各種たより**)にアップしています。

担当：学校生活適応支援アドバイザー 飯山・大瀧
TEL 639-4392（支援要請は 639-4381）